

平成29年度 第2回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

平成30年1月26日(金)午後3時より午後4時30分

石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者	石狩市民図書館協議会	会 長	河村 芳行
		委 員	中川 聡子
			北條 静香
			山本 武
			青木 貞康
			光川 眞順
			中村 友昭
			奥村 佳恵
			森地 亜矢子

石狩市民図書館	館 長	東 信也
	副館長	清水 千晴
	奉仕兼事業担当主査	岩城 千恵
	事業兼奉仕担当主査	鎌田 晶彦
	事業兼奉仕担当主任	鈴木 美幸

傍聴者 0名

<会議次第>

1. 報告事項

- (1) 主な事業の開催状況について
- (2) 事業者等からの寄附・寄贈について
- (3) 教育委員会の点検・評価（平成28年度分）について
- (4) 平成30年度石狩市民図書館の運営について
- (5) 市民図書館アンケートについて

2. その他

■開会

河村会長：これより平成29年度第2回石狩市民図書館協議会を開催します。本日の欠席は、水野副会長です。

最初に、生涯学習部長よりご挨拶をいただきます。

佐々木部長：本日は非常に天候の悪い中お集まりいただき、有難うございます。本来は教育長がご挨拶申し上げるところですが、公務で市外におりますため、私が代わりに伺いました。

委員の皆さまには日頃から図書館行政のみならず、市の教育行政にさまざまな形でご支援、ご協力いただき、本当に有難うございます。この2年間で皆様に取り組んでいただいた中で特筆されますのが市民図書館アンケートかと思います。このアンケートの作成にあたって、大変活発に議論いただきましたお陰で、回答しやすい内容になったと感じております。市役所には審議会や協議会などがありますが、こういった形で踏み込んだところまで検討いただくことは稀なケースではないかと思います。重ねてお礼申し上げます。このあとアンケートの集計結果の報告もありますが、お陰様で前協議会からの宿題を果たすことができましたと感じております。

また学校図書館でいいますと、図書の更新が進まなかった部分も、図書費を増額して計画的に更新をしていく体制が整いつつあります。これも委員の皆様方の有形無形の取り組みが行政を動かしたところもあるのではと考えております。学校の図書の充実については今後も計画的に進めていく所存ですが、是非そのあたりもご覧いただきたいと思います。

最後になりますが、2年間の非常に活発なご活動にあらためてお礼を申し上げ、私からの挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

河村会長：有難うございました。公務のご都合により生涯学習部長はここで退席されます。

それではあらためまして、本日の会議の予定についてお知らせさせていただきます。

まず1点目に「主な事業の開催状況について」、2点目に「事業者等からの寄附・寄贈について」、3点目に「教育委員会の点検・評価（平成28年度分）について」、4点目に「平成30年度石狩市民図書館の運営（案）について」、5点目に「市民図書館アンケート集計結果について」報告を受ける予定となっております。

閉会予定時刻、16時30分を目処に終了したいと思いますので、円滑な協議を進めるためにご協力をお願いいたします。

続いて資料の確認ですが、図書館からすでに送付されていると思いますが皆さんお持ちでしょうか。お持ちでない方がいらしたらお知らせください。

■議事

1. 報告事項

(1) 主な事業の開催状況について

河村会長：では議事に入ります。まず、「(1) 主な事業の開催状況について」報告を受けます。
図書館は説明をお願いします。

鎌田主査：それでは、事業の開催状況について報告いたします。

まず、1点目「第7回科学の祭典in石狩」について、お手元の資料とパワーポイントで説明いたします。

科学の祭典in石狩は、地域で活動する科学グループや指導者、教育関係者などが実行委員会をつくり図書館職員が事務局員を担い、地域子ども達をはじめとする多くの市民に科学の不思議や面白さ、素晴らしさを体験し、感じてもらおうと開催しており、今年度で7回目になりました。

今年は、9月10日(日)に図書館・子ども未来館「あいポート」を会場に実施いたしました。好天に恵まれ、また、同日子ども未来館「あいポート」前に、公園「あいぱーく」も開園したことが影響して1,900人の来場がありました。当日は38種類以上の実験や工作ができるブースが、全部で28ブース出展されました。今年度は、小学生がこれまでの祭典で最多の3つのブースを出展し、16人の児童が来場者へ教える側として参加し、子どもが大人に、また子ども同士で教え合うという貴重な体験の場となりました。また、過去最大の来場者となりましたことから、午前中に実験材料が無くなってしまうブースや実験待ちが出るブースがあり大盛況でした。

次に「第18回石狩市民図書館まつり」について、報告いたします。

毎年、秋の読書週間に合わせて、読書活動の推進を図るため、図書館のボランティア、関係団体と職員から構成する図書館まつり運営委員会により企画・運営しています。

今年は、「まつり」をテーマに10月28日・29日に開催し、2日間で4,986人の来場がありました。昨年に続き、普段は入れない館内を司書が案内する「図書館ミステリーツアー」のほか、テーマの「まつり」にちなみ「作って遊ぼう！ミニ縁日」とうたい、手作りヨーヨーとペーパーフISH釣りを実施しました。また、初出演いただきました厚田の地域おこし協力隊の今野博之さんによるオペラコンサート、戎屋聖一郎さんによるギターコンサートや来場者と一緒に歌ううたごえ便よりみちさんによるコンサートには、多くの方に参加いただきました。

続きまして、「友好図書館交流事業」について、報告いたします。

本市から、11月17日(金)から19日(日)の3日間、石狩市郷土研究会の村山会長と私が沖縄県恩納村を訪問し、18日(土)恩納村博物館にて村山会長より「母なる川石狩川と歩む石狩市」と題し講演いただきました。当日は27名の来場があり、北海道と命名されて来年が150年を

迎えることを冒頭に説明し、北海道と石狩にちなんだ話題として、アイヌに由来する地名、蝦夷から松前藩と石狩場所、場所請負人の村山伝兵衛の栄華と衰退や明治から平成までの石狩について他、現在の石狩市の情景を写真で紹介されました。来場者からは「北と南、真逆の地で川を中心に栄える町興し、沖縄には無い自然を想像しながら講演を満喫しました」など多くの感想が寄せられました。

岩城主査：引き続き画像を使って「平成28年度 主な事業の開催状況について」説明させていただきます。お手元の次第1ページもあわせてご覧ください。

「第6回 図書館を使った調べる学習コンクール 石狩市コンクール」です。

調べる学習コンクールは、子どもたちが主体的に学ぼうとする意欲を育むとともに、図書館等の活用により情報を取捨選択し、自分の考えをまとめる力を身に付ける機会とすることを趣旨としています。対象は石狩市内の小中学生です。。

コンクールの全体像は、公益法人図書館振興財団が実施している全国規模コンクールの地区コンクールになります。

夏休み期間中、子どもたちに、調べものを進めるときのポイントや、調べる際に使用する本などに興味をもって触れてもらえるような特集展示を行いました。また、市民図書館を会場に夏休み特別講座を実施しましたが、この講座が浸透してきたのか、今までで最も多い43名の参加がありました。作品の募集は9月の1か月間で、応募数は484点でした。

審査会は、10月5日（木）に実施しました。審査員は5名、図書館協議会委員の学校関係者や学校司書等で構成されており、水野副会長、山本委員、中川委員に審査員となっていただきました。受賞作品は複製を図書館内で展示しました。今年度の特徴として、コンクールが定着してきたのか、調べたきっかけを明確に記載し、テーマ設定のしっかりしている作品や、掘り下げた内容となっている作品、表現の仕方やまとめ方が素晴らしいものがありました。

10月22日（日）、教育長、審査員の皆様にご参加いただき、表彰式を行いました。なお、この中から全国コンクールへ9点の作品を推薦した結果、昨年度に引き続き奨励賞1作品、佳作8作品の受賞がありました。

次に学校図書館について報告いたします。

「平成29年度 石狩市教職員研修サマーセミナー」です。

石狩市教職員研修サマーセミナーの12講座中、図書館で1講座の枠をいただき、テーマを「借りるだけではもったいない、図書館を使いつくすコツ教えます」と設け、研修を実施しました。市内の小中学校教職員を対象とし、35名の参加がありました。内容は、石狩市の学校図書館施策や、学校図書館実務に関する説明、石狩市民図書館の案内、そして、場所を緑苑台小学校図書館に移し、学校図書館の紹介をしました。

研修後、教職員からのアンケートでは、「学校司書の話聞いて、とても参考になった」、「石狩市民図書館の中をじっくり見たことがなかったので、いろいろ発見できて良かった」、「ここ

をスタートに専門的な知識を身に付けたい」、「もっと図書館を利用し、教育に活かしたい」などの感想をいただきました。以上です。

河村会長：有難うございました。ここまで「主な事業の開催状況について」でしたが、ご意見ご質問等ございませんか。

毎回のお願いで申し訳ないのですが、議事録作成のために録音をしていますので、私に指名された際は、お名前を言ってから発言していただきますようお願いいたします。また、できるだけ大きな声でご発言願います。

青木委員：友好図書館交流で、恩納村での講演会に 27 名が来場したとの報告でしたが、せっかくの機会なので、一般向けに案内や周知、公募のようなことはされないのですか。たまたま観光目的などで沖縄へ行く市民が、こういう講演会があるのなら参加してみたいな、ということもあるのではないかと。

清水副館長：青木委員の話された内容ですと、市の大きな取組としての交流事業になるかと思っています。本事業は図書館間の交流事業として、互いの図書館に係る者が行き来し、交流を深めましょうという趣旨で行っています。

河村会長：ほかにございませんか。

光川委員：調べる学習コンクールの全国コンクール結果について、奨励賞 1 点、佳作が 8 点との報告がありましたが、これは凄いことですね。全国の中で何百点も選ばれるわけではないと思いますが、9 点も入選したという結果に驚いています。

清水副館長：このコンクールにはいくつかの賞がありますが、全体の応募数約 9 万点（91,908 作品）のうち選外が約 98%（90,276 作品）ですので、入選した市内児童・生徒の作品は本当に素晴らしいと思います。特に双葉小 5 年生が受賞した奨励賞は、入選比率（全体の 0.27%）からみましても、大変優秀な作品であるとの評価だと思います。

河村会長：ほかにございませんか。

（２）事業者等からの寄附・寄贈について

河村会長：では次に「事業者等からの寄附・寄贈について」報告を受けます。図書館は説明をお願いします。次第 3 ページになります。

鎌田主査：それでは、今年度の寄附・寄贈について、報告いたします。

はじめに「寄附」について、報告いたします。

6月28日、株式会社ワールドウッティ様より図書購入費として20万円をいただきました。

次に11月10日、石狩市新港地域のパールライス工場のあるホクレン様よりホクレンパールライス工場で行われるファン感謝祭への入場料収益472,200円を、子どもの読書環境の向上を目的としていただきました。これまでホクレン様からは平成23年度から継続的に寄附をいただき、平成28年度までは、ブックスタート事業費の一部として活用させていただいています。

次に、「寄贈」について報告いたします。

8月1日、株式会社環商事様より30万円相当の児童書99冊を寄贈いただきました。なお、こちらは平成19年度から毎年寄附いただいています。

次に、8月24日、石狩市佛教会様より、10万円相当の一般書・児童書49冊を寄贈いただきました。これまでも市民図書館へは、平成20年度に300,000円の寄附、27年度は児童書23冊の寄贈、さらに小学校へは平成21年度から24年度まで児童書を寄贈いただいています。

11月22日、創価学会様より厚田区内の小中学校全5校へ各校20冊、児童書の寄贈をいただきました。なお、平成26年から平成30年までの5年間寄贈いただく予定となっています。

12月14日、札幌北法人会様より展示用ブックトラック1台、ミニブックトラック2台を寄贈いただきました。

12月19日、市内のエクセレントG&G様より開業35周年記念として移動式展示パネル4台を寄贈いただきました。以上です。

河村会長：ただいまの寄付、寄贈についてご質問はありませんでしょうか。

（３）教育委員会の点検・評価（平成28年度分）について

河村会長：では次に、「教育委員会の点検・評価（平成28年度分）について」報告を受けます。

岩城主査：それでは、「（３）教育委員会の点検・評価（平成28年度分）について」説明させていただきます。資料1、教育委員会の点検・評価報告会（平成28年度分）をご覧ください。

教育委員会の点検・評価（平成28年度分）について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。

この法律に基づき、教育委員会は、昨年度の活動状況及び主要な施策・事業について点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ、「教育委員会の点検・評価報告書」をまとめ、10月の会議で決定し、公表しました。

今回、資料1としてお配りしたのは、この報告書のうち、図書館部分の抜粋になります。内容は事業の実施状況や、成果指標として掲げた数値の達成度合いなど、今年度第1回目の本協議会でほぼ報告しておりますので、ここではこのような報告書が市教委として公表されているという報告にとどめさせていただき、あらためての内容説明は省略させていただきます。

ただ10ページ目の「点検及び評価に対する学識経験者による意見について」の内容は、10月に行なわれた外部評価委員会であがったご意見ですので、今回説明させていただきます。

11ページをご覧ください。

「重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育」の施策1として、図書館に関する項目について、外部評価委員から一点ご意見がありました。

「市民図書館や学校図書館での蔵書の充実に一層努められることを望む」

この意見については、9ページにも記載がありますが、石狩市民図書館では、新規購入と計画的な除籍による蔵書の更新を継続的に行い利用者が求める魅力的な蔵書、使える情報の提供に努めてまいります。学校図書館につきましては、今年度は全小中学校に対して図書費を増額し、蔵書冊数を増やすだけでなく、古い本の除籍を進め、蔵書の更新も促進しています。

また、学校図書館図書標準の算定方法を、石狩市独自の考え方に定めたことにより、目標冊数が現実的なものとなり、除籍と更新が進めやすくなりました。

こうした取り組みのもと、図書標準達成校数の増加が見込めるだけでなく、蔵書の更新が進み、充実した蔵書の構築が促進されと考えております。

市民図書館、学校図書館ともに、常に新しい資料を受け入れながら、古い情報が掲載された図書などの適切な除籍、更新を進め、市民や児童・生徒・教員にとって魅力的な蔵書の構築となるよう、努めていきたいと考えております。以上です。

河村会長：ただいまの報告について、ご質問等はありませんでしょうか。

河村会長：では、私からひとつ感想を述べさせていただきます。

石狩市教育委員会外部評価委員会から平成27年度の取組に対する意見が二点あがっていましたが、一点目の「市民図書館ではありますが、石狩の良さをアピールする拠点でもあることを望む」というお言葉をいただいておりますが、石狩市民図書館はとても開けた図書館だと感じています。アンケートの集計結果にも出てきますが、市外在住者が居住地の図書館に満足していないのか、「石狩市民図書館を利用している」などの意見は、良いサービスを提供している表われなのではないかと思います。これからは利用者主体の利用館選択が行われ、図書館も選ばれる時代になるのかという感想を持ちました。今後とも開かれた図書館であって欲しいと思

います。

（４）平成30年度石狩市民図書館の運営（案）について

河村会長：では「平成30年度石狩市民図書館の運営について」報告を受けます。

清水副館長：資料２、平成30年度主要事業の要求状況をご覧ください。

新規事業等について、予算要求の状況より説明いたします。

図書館に関するものは、一番上の「厚田小中学校統合関係事業」になります。現在、厚田区にある小学校３校と中学校２校を１校に統合し、2020年４月に小中一環義務教育学校として開校を予定しております。この学校新設に向け、先んじて厚田小学校の地域開放型学校図書館に移設する厚田中学校の蔵書内容をデータ化するための予算を要求しております。

また、ここには記載していませんが、学校図書館等充実事業を拡充するための予算も要求しています。全小学校への学校司書の配置、派遣体制整備が完了したことから、来年度からは中学校の図書館整備を進めるため、中学校への学校司書の巡回派遣を行う予定です。

次に資料３をご覧ください。

こちらは石狩市民図書館ビジョンで掲げる５つの柱について、現状を踏まえ、次年度の運営の重点を設定しています。

「柱１．子どもの学びを支援する」としては、今年度に引き続き「学校図書館の体制整備」を重点としています。

まず「学校図書館の蔵書の充実」を考えています。次年度も今年度に引き続き、図書費の増額を要求しています。蔵書数を増やすだけでなく、適切な除籍も進め、蔵書の更新を促進したいと考えています。

次の「中学校図書館の体制整備」と「平成32年度統合予定の小中学校図書館」の関係は、先ほど申し上げたとおりです。

続きまして「柱２．資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する」に対する運営の重点は「情報の発信」を考えています。

「特集コーナーの充実」と、「各種サービスのPR」について、今年度も同様の内容を重点とし推進してきましたが、市民アンケートの回答に、特集コーナーへの期待が寄せられていたこと、また、本が何冊でも借りられること、分館での資料の取り寄せやホームページからの予約ができることなど、図書館としては普通のサービスとして行っているものへの評価が多数見受けられましたので、あらためて「図書館でできる基本的なサービス」のPRが今後の利用促進につながるのではないかと、また次に述べる「分館でのサービス活性化」に繋がりそうな可能性を感じられたことから、この２つを重点といたしました。

次の「柱３．市民の誰もが利用できるような環境を整備する」に対しては「分館でのサービ

ス活性化」を重点といたします。

本市の高齢化が進んでいることを考えますと、ますます分館の存在意義は高まっていくと考えております。アンケートの回答にも、本館までの足の問題はあがっておりました。昨年度から「地域性を考慮したサービス展開による利用の促進」を図るため、試行的に花川南分館と八幡分館で運営計画を作成しています。5、6ページに掲載していますが、この分館計画に基づき、花川南分館では花川南小学校との連携による、花川南エリアの子どもの読書環境向上を意識的に行い、おはなし会や蔵書のPRを行ってまいりました。また八幡分館でも、近隣のくるみ保育園の利用を意識した蔵書づくりを進めるなど、利用者との距離が近い分館ならではのサービス展開が、意識的に進められているかと思えます。

次の運営の重点、「柱4．サービスを支える基盤を整備する」については、「市民協働による事業展開」を考えております。今年度に引き続き、ボランティア・関係団体との連携による事業展開を進めてまいります。

最後の運営の重点、「柱5．利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する」は、魅力的な蔵書・情報源の構築に努めてまいります。昨年度から計画的な除籍を進めてまいりましたが、魅力的な蔵書を構築するため、次年度も引き続き、新しい資料の受け入れとともに資料の適切な除架及び除籍を進めていきたいと思えます。

以上が次年度の運営の重点です。

また「推進する取組」については、これら運営の重点を踏まえ、取り組む予定の具体的な事業のうち主なものを記載しております。

ここで詳細な説明は行いませんが、昨年行った市民アンケートについては、4ページの「住民調査の実施」の項目に記載しているとおり、アンケート結果の分析に取り組んでいく予定であることを報告いたします。以上です。

河村会長：ご質問はありませんでしょうか。

青木委員：ご報告にあった分館近隣の保育園とは自分の勤務先でもあり、最近利用させてもらいましたが、子どもたちも早速利用している様子で、絵本や新しい本もあって大変有難いことです。ただ限られたスペースのため、子どもたちがその場で座って読み始めたりすると一般の方にやや迷惑かな、という印象もありますが、図書の充実は嬉しいことです。

河村会長：「柱2．情報の発信」ですが、非利用者からすると、そもそもホームページすら見ることもしないと思いますので、PR方法の検討も必要かと思えます。

もうひとつ「柱5．魅力的な蔵書・情報源の構築」。利用者にとっては、当然新刊図書は多ければ嬉しいと思うので、年間購入冊数を増やすことが一番かと思えますが、予算の関係もあり

ますので、リクエスト制度を活用して利用者の満足度を高めることや、また除籍や古い本の閉架移動などで館内を明るく保つことも大切ではないかと思います。

山本委員：運営の部分ですが、地域性を考慮して、共働き世代に遅い時間も開館しているというのを、もっとアピールしても良いのではないかと思います。

河村会長：広範囲のコマーシャルは費用面でも難しいとは思いますが、開館時間を周知するなどのPR方法は考えてみても良いのではないのでしょうか。

河村会長：ほかにご意見等はありませんか。

（５）市民図書館アンケート集計結果について

河村会長：市民図書館アンケート集計結果について、図書館は説明をお願いします。

清水副館長：改めてアンケートの実施概要を説明します。

昨年（平成28年）の10月13日（金）～26日（木）の2週間に渡り石狩市に住民登録のある、満20歳以上の市民2,000人を対象に行いました。

性別、年代は均等に、居住地区は人口構成比に比例した割合で無作為抽出です。

アンケートのねらいは（１）非利用者が利用しない理由の把握、（２）利用者カードの使われ方の実態把握、いわゆる家族カードについてです。数値としては、石狩市民の登録割合が下がっているという実態がありますが、貸出点数や来館者数等の数字は横ばいであり、利用が目立って落ちているというようには感じられません。また、石狩市民図書館は貸し出し冊数の制限をしていないので、本人は利用登録せず、家族のカードで借りているなどの状況があるのではないか、などの実態把握を目的としております。（３）利用者の来館目的の把握は、貸出点数や来館者数等、得られる数値では確認できない来館目的を聞き、石狩市の図書館に市民が求めているもの、評価しているものを把握したい。以上の3点になります。

資料4の集計結果をご覧ください。

まず回収状況ですが、送付した2,000人のうち、507人、25.4%の方から回答がありました。男性は2割、女性は3割で、女性の回答率の方が高くなっています。次に年代別で見ると、年代があがるにつれ回答率が高くなっています。性別年代別で見ると、20代は男女ともほぼ同じ、30代から50代までの、主に働いている世代では男性の割合が低く女性の割合が高くなってい

ます。地域別で見ると、花畔や花川北、緑苑台など本館周辺の地域は高めと見ております。

次に回答の内容ですが、まず回答者の属性をご説明します。性別は女性が6割、男性が4割と、女性が多かったです。年代で見ると、回答者の割合は年代が高い方が多くなっています。また6割弱が働いている世代である20代から50代の方からの回答でした。地域別では、地域毎の人口構成比に比例して発送したため、一番人口が多いことから発送数も多い花川南と、次に人口が多い花川北の市民の回答が多くなっています。回答者の職業ですが、被雇用者と雇用主・自営業の方、働いている方からの回答が合わせて約6割となりました。

次に市民図書館の利用状況です。

問1の図書館に行くかどうかの問いには、行く方と行かない方は約半々で、5割の方が「行く」と回答されました。一方、平成28年度の図書館の市民登録割合は18.1%ですので、この数値だけ比較すると、登録割合としては低い数値であっても、実態としては5割の方が図書館をなんらかの形で利用しているという見方もできるかもしれませんが、今回のアンケート回収率は25%で、返信いただけなかった75%の方については、回答いただいた方より図書館に対し、関心がない、または低いといったことも考えられるので、一概に利用が多いと分析するのは難しいと思っております。

問2では主に利用する図書館を訊いていますが、約8割が本館と答えています。花川北等、本館周辺エリアの回答者は4割なので、近くの分館より遠くの本館を利用している実態がうかがえます。

問3では行く目的を複数回答で求めました。今回のアンケートの目的の1つであります、利用者の来館目的の把握です。一番多かったのは、約8割の方が選んだ「本・雑誌を借りる」、次は約4割が選んだ「本・雑誌を読む」。これは「借りずに読む」ということで、数値に表れにくく利用実態を把握しづらい部分かと思います。続いて「野菜等の購入」「趣味等の調べもの」、いずれも約4割が選んでいます。

問4で行く理由を複数回答で求めたところ、一番多かったのは約6割が選んだ「本の種類・雑誌が多い」、こちらは分館ではなく本館を選ぶ理由かと思います。続いて「自宅や職場から近い」「雰囲気が良い」「本を探しやすい」、この4つが多かった回答です。

問5の「図書館で気に入っていること・もの・サービス」を訊いた設問は、自由筆記であるため、今回の資料には掲載してないのですが、今回は多かった内容を口頭でお伝えいたします。

まずは「職員対応」。好意的な評価をいただいております。また「分館での本館蔵書の取り寄せ」や「インターネットからの予約」といった、図書館としては普通の対応と考えているようなサービスや、「何冊でも借りられる」といった、他の図書館ではあまり行なわれていない、石狩市民図書館の特徴とも言えるサービスへの評価も複数いただきました。次に施設面とし

て、「図書館の雰囲気が好き」。また具体的な内容としては、「野菜の販売」「喫茶コーナーや飲食ができるエントランスホール」「本のリサイクルコーナー」があげられていました。繰り返しになりますが、我々としては当たり前と考えていたことへの評価が高いことから、PRを進めることで、今後の利用拡大に繋がる可能性を感じているところです。

問6では利用者カードがどのように使われているのか、利用者カードの使用実態を問いました。今回のアンケートの目的のひとつである、利用者カードの使われ方の実態把握です。資料を借りるにあたり、8割弱が自分のカードを使用し、約1割が家族のカードで借りているという回答でした。自分のカードを使っている人のうち、25%、4人に1人が他の人の分も借りていて、そのうち半数の方が小学生以下の子どもの分を借りている。次に自分のカードで借りていない人は、誰のカードで借りているかを訊いたところ、中学生以上の子どものカードで借りている人が約4割、夫婦または小学生以下の子どものカードで借りている人がそれぞれ約3割。また、そもそも借りないで、読むだけなので利用者カードは持っていないという回答も、アンケート用紙の欄外に記載がありました。こういう方は、市民登録割合という数値には表れてこない利用者です。

問7は今回のアンケートの目的のひとつである、非利用者が利用しない理由の把握です。

今回の回答者のうち、約半数を占める「図書館には行かない」と回答した方への設問です。「図書館に行かない」と回答した232人のうち、約半数が「以前は行っていた」、あと半数は「そもそも行かない」と回答。以前は行っていたけれども行かなくなった理由を複数回答で訊くと、一番多かったのは約4割が選んだ「忙しくなった」。回答者の世代をみると、一番多いのは60代、続いて50代、40代でした。次は36%が選んだ「本を読まなくなった」。こちらは回答者の世代をみると、圧倒的に60代、70代が多かったです。続いて約3割が選んだ「情報はインターネット（スマートフォン、パソコンなど）で得るようになった」、「本は自分で買うようになった」、「年をとって行くのが大変になった」と続きます。この5つが多い理由でした。そもそも行かない理由として多かったのは、約5割が選んだ「本は自分で買う」、次は約3割が選んだ「情報はインターネット（スマートフォン、パソコンなど）で得ている」、続いて約3割が選んだ「もともと本は読まない」、「忙しい」となっており、この4つが多かったです。「以前は行っていた」、「そもそも行かない」、どちらの回答者の行かなくなった理由についても、各個人のライフスタイル、考え方によるものが多いと感じましたが、一方で図書館の取組次第で利用に繋がるものもあると考えています。また世代をみると、「そもそも行かない」と回答した方のうち、20代が1割弱、30代、40代は15.6%、50代以降は約20%と開きがありなく、一方「以前は行っていた」と回答した方は、50代以降、特に60、70代が多い。「以前は行っていた」と回答した方の行かなくなった理由で一番多かった「本を読まなくなった」を選んだのも、60代以降が多い。これらについて、図書館利用の促進の参考にするた

め、こういった分析について、今後続けていこうと思います。

問8では図書館に行かない人に、「自分は利用していなくても、図書館は役に立っていると思うか」訊いたところ、9割以上の方が「役に立っている」と回答されました。その理由として多く書かれていたのは、自分が利用していなくても「家族」特に「子どもが利用しているから」。また、「特に子どもには必要」という意見が多数見受けられました。その他、「本を買えない人には必要」「他の人には役に立っている」といったものや、「市としてあるべき」という意見、また「多くの知識に触れる機会を平等に提供できるため」「その地域特有の古い資料などの保存管理は必要」「自由に本を読める場所は大事」「生涯学習の基盤として、必要な市民がいることも十分理解している」「まちの文化の拠点」といった図書館の役割の面からの意見もいただきました。その他、「周りの人には利用している人も多く、交流の場になっていると思う」「他市の知り合いが利用していて評価している」「市外からの利用者も多く、良い評価を聞いている」といった、当館の特性が感じられる意見もありました。一方、「役にたっていると思わない」と回答した方の理由としては、「ほんの一部の住民の為に税金を投入するのは、今の時代ではおかしい」「日中、時間のある人しか行かない」「スマホ・インターネットの普及で図書館の必要性が低下している」という意見でした。

次に問9で、希望する資料の種類を複数回答で訊くと、一番多かったのは、約6割が選んだ「一般書」、次は3割の方が「児童書」、そして「本（石狩市・北海道関係のもの）」「雑誌」と続きます。

また、問10で希望する図書の分野を複数回答で訊くと、一番は約3割が選んだ「趣味・娯楽」、続いて「文学」、「医療・健康」「生活関連」と続きます。「医療・健康」への関心の高さが伺えました。

次に問11で回答者の読書習慣を訊くと、一番多かったのは、約3割が「1ヶ月に1冊も読まない」で、昨年発表された読書に関する全国調査でも、読書は「月0冊」と回答された方は3割でしたので、同様の傾向が本市でも見て取れました。

次は「子どもの読書習慣」です。

回答者のうち、小学生から18歳以下のお子さんのいる方に、子どもの読書習慣について訊きました。子どもが2人以上いる場合は、より読書するお子さんについて回答してもらいました。回答された子どもの年齢は、世代の偏りはほぼありません。まず、子どもが読書しているところを見かける頻度ですが、約3割が「週2、3回」で、次いで「ほぼ毎日」と続きます。一方、子どもが読書する姿をほぼ見ないと回答した方も約2割ありました。次に、子どもが「ほぼ毎日」「週2、3回」読書していると答えた方にしぼって、子どもがよく本を読むようになったのは何故だとか訊いたところ、一番多かったのは、約3割の「小さい頃から読みかかせたから」、そして「小さい頃から家に本をたくさんおいていたから」「小さい頃から図書館

に連れて行ったから」「もともと本好きな子どもだった」と続きます。家読(うちどく)を進めるにあたり参考になるのでは、と考えています。

問 12「意見、要望」を自由筆記で訊きました。概ね肯定的な言葉や感謝、励ましの言葉をいただいております。図書館の在り方として一つ印象的な意見だと受け取りましたのは、「図書館は役に立っている。デジタル社会は便利だが、万人が利用できる点とコミュニティスペースとしても重要な施設。多種多様な知識・文化を輕易に見る（接する）ことができる。（デジタルは自分の好きなものに片寄りがちになる）」。一方、要望、意見としては、「開館時間や開館日数の拡大」、「古くて汚れた本が多い」、「図書館に行くのが困難」といった足の問題もありました。

成果、総評としましては、今回のアンケートの目的である3つの点である、（1）非利用者が利用しない理由の把握、（2）利用者カードの使われ方の実態把握、（3）利用者の来館目的の把握について、把握という点では、ある程度目的は達成できたのではないかと思います。今後は回答の分析を進め、運営の参考にしていきたいと思います。

河村会長：詳しく説明いただきました、ご意見ご感想等ございませんか。

光川委員：詳細な分析結果の報告有難うございました。

5 ページ「図書館に行かない理由」のなかで「情報はインターネット得ている」という意見が多くありましたが、逆に考えるとインターネットを利用する人たちが多いということなので、それを逆手にとって、石狩市民図書館の個性ある担当者が、たとえば動画やユーチューブなどを用いて発信をしたら、何か面白いことをやっているな、と利用の少ない若い世代へ、借りるという目的よりまず行ってみようかな、といった興味を引く魅力の発信になるのではないかと思います。

河村会長： とても良いご提案をいただいたと思います。

インターネットが普及し始めた当初、ネットをよく利用している人は図書館もよく利用しているという論文もありましたが、もう普及して20年も経ち皆がインターネットを使う時代になってきた今、この論文が主張していた内容はどうかと思います。非利用者はインターネットや書店を代替の場としている、これは新聞を取る人が減っている状況と同じく、デジタル化が進んでいるからだと思います。

北條委員： 問8の図書館は役に立っているかの回答は「はい」が多くて良かったです。

また、(図書館資料に関する希望)の問9ですが、CDやDVDを図書館に求めていることも良いと思いました。個人の趣味などに関するものは自分で購入する方が多いと思うのですが、あえて

こういうものを図書館に欲しいと希望される方がいることは良いと思いますので、金額も高いので難しいかもしれませんが継続して行って欲しいと思います。

新しく始める事業のアイディアは、既存のものを使ってどこまで新しくするのか、個性を活かす可能性も高いのではないかと思います。先ほどのご意見にもありますように、SNS などを利用していくのもひとつの案だと思います。そういう発信で違う世代を取り込んでいくこともできるのではないかと。野菜を購入するために利用している方も多いとか、貸出し冊数の制限が無い、なども加えて発信したら良いでしょうし、高齢や目の衰えなどを理由に読書から遠のいている方々に、朗読 CD や落語の CD など耳から得る資料も扱っていますなど、目の届かなかった情報を更に PR していくことも大切ではないかと思います。

以前も提案しましたが、マニア向けのコーナーを設けるなど、何かしら新しいことをしているなどといったアピールを、地味かもしれませんが継続的にしていくことで、利用者側も楽しみができると思います。

河村会長： 問 8 の結果ですが、集計に含まれている無回答を除くと、「使っていないなくても役に立っていると思う」は、98.1%となります。非利用者であっても図書館の社会的必要性を感じているという結果であります。

自由記述には 2 %ほどの否定的な意見はありますが、過去の調査結果でもほぼ符合しているということでありまして、図書館側としてはあまり聞きたくなかった質問かもしれませんが、この結果に自信を持って運営サービスを続けていただければよいのではないかと感じます。

もう一点、高齢化などで利用者が減ってきているという話しですが、石狩市民図書館では 5 年ほど前から始められている従来の障がいのある方など無料宅配サービスのほかに、希望すれば誰でも利用できる有料の宅配サービスもあるということが、意外と知られていないのではないのでしょうか。今後は、電子図書サービスなどを含め非来館型のサービスの充実もポイントのひとつかと思いますが、高齢化が進んでいくなかでこのような方面のサービスも検討されたらいかがかと思えます。

また、先ほど清水副館長からも説明のありました問 6 「主に誰のカードで借りますか」の補足ですが、35%が利用者カードを家族カード化しているという結果について。利用者カードは貸出しに必要なので、個人貸出しが前提のなかで自分以外のカードを使うことは本来あつてはならない利用の形ですが、今後もこのような利用は増えてくるのではないかと思います。貸出し冊数が無制限なので、利用者カードが 1 枚あれば家族が読む分も賄えるというわけですから。今後図書館の指標も少し変わってくるのかもしれない。

登録率が 18.1%で低いということが今回の調査理由の発端といえますが、この家族カード化しているという数値結果を考慮し、家族の誰か一人の分しか借りていないという前提に立った

としても、登録率は最低 24.4%にあがるとみました。

詳しいことは論文にまとめましたので、皆さまにも図書館を通じて 3 月末には分析結果の報告ができると思いますし、今後の図書館運営の参考や協議会でも活用いただければ嬉しく思います。

最後に、問 7「行かない理由について」は、(a 以前は行ったことはあるが、今は行っていない) (b これまで行ったことがない) ほぼ半々の回答結果となっています。読み解きますと、非利用者の利用者としての取り込みは難しいと思います。非利用者にいくらかでも図書館を使ってもらえれば利用率や登録率が上がるのでは、と検討してきた訳ですが、本は買って読むという人は借りないし、インターネットで充足している人はどんなサービスをしても変わらない。結論からすると、石狩市民図書館は前利用者が逃げてしまっている。44.8%が一度は図書館を利用していたが諸々の理由で来館しなくなった。ただ、行けない状態が過ぎればまた使ってくれるのかなと考え、非利用者を一括りにするのではなく、前利用者がもう一度戻ってくるサービスを考えていったほうが良いのではないかと思います。

1 回利用してくれた人は離さない、逃げてしまった人をどう取り戻すか、やみくもに利用者を増やそうということではなく、ある程度ターゲットを絞って改善すべき内容を検討するのが効果的かと感じました。

それと、質問がひとつあります。2 ページ目の地域別の集計で、花川北と花川南の回答率が突出していますが、アンケートは各地域人口の多少に関わらず均等に発送しているわけですから、本来は地区別の回収率はほぼ同率であると思います。この 2 地区在住者の意識が高いと捉えてよろしいのでしょうか。

清水副館長：1 ページ目の回収率からすると、人口割合で発送数を決めているので、発送数に対しての回収率は、花川南は 22.8%ですからそれほど高くはないです。花川南は人口が多いので回答数も多くなることから、花川南の住民は回収率は高くなくても、今回の回答全体の中の割合は多くなります。

東館長：回収数合計 507 のうち花川南は 183 で花川北は 143。計 507 が基本数なので、2 地区からの回答が占めている割合が高いということを示したい訳ですが、併せて回収率を並べて表示するなどの工夫が必要かと思います。表の見せ方が問題ですね。

河村会長：私もあとになって気づきましたが、もともとの多く発送している数が多い地区から同率で回答があっても、地域別の回答数は不要ですね。発送数との関連はあってもこの棒グラフは無いほうがすっきりします。各地区から満遍なく回収されている状況からみて、結果は市

民全体の回答を反映していますということを示したいわけですから、回収率は必要ですが、地域別回答割合は混乱を招くと思いますので、どこかで資料提示される場合はもう一度検討されたほうがよろしいかと考えます。

ほかに気づいた点、ご意見等はありませんか。

アンケート内容も協議会で検討し、結果についてもご意見をいただいてきました。図書館としてより良いデータ報告ができるよう考えますので、お気づきの点があれば外部から指摘がある前に、皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、後日でも構いませんので図書館へお願いいたします。

以上となりますが、全体を通して何かございませんでしょうか。

河村会長:では以上をもちまして、平成29年度第2回石狩市民図書館協議会を終了いたします。

第9次石狩市民図書館協議会委員として、2年間ないし、1年間の任期大変お疲れ様でした。

私も退任となりますので、一言ご挨拶させていただきます。

早いもので、石狩市民図書館協議会委員を通算6年務めさせていただきました。規定により今期で退任となります。会長の重責を大過なく全うできましたのも、皆さま方のご協力があったのことに感謝申し上げます。任期満期終了ですので、今後石狩市民図書館協議会委員としての登場はないと思いますが、これからも図書館運営についてなども研究テーマとしてあと10年くらいは大学教員も続けていきますので、何かの機会がありましたら、何らかの形で石狩市の図書館行政に関わることができたら幸いに思います。

最後になりますが、皆様のご健勝と石狩市民図書館の益々の充実発展を願って、退任の挨拶といたします。本日はどうもありがとうございました。

東館長:河村会長ならびに協議会委員の皆さま、2年ないし1年間、ご理解ご協力いただき本当に有難うございました。この間、図書館運営に様々な角度からのご支援ご助言に感謝申し上げます。

冒頭、生涯学習部長からも話がありましてとおり、この2年間は特に市民アンケートが大きなテーマでありました。いかに多くの市民に率直な意見をいただけるのか、実態を掴んでいけるのか、通算3回にわたりご議論いただいた結果、お陰様で成果と課題が明らかになったものと思っております。この結果を受け、市民の期待に応える図書館、また利用者主体といったところも含め、より良い図書館運営に努めてまいりたいと考えております。

皆さまには、これまでのご理解ご支援に改めてお礼申し上げますとともに、今後ともお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。誠に有難うございました。

会議録署名委員

平成 30 年 2 月 17 日

会長 河村 芳行